

2016年6月14日

景気より経済

公益財団法人 国際通貨研究所
理事長 行天 豊雄

昨今の日本経済を見ていて感ずるのは、何処か焦点が定まっていないということだろう。政府も、企業も、個人も、一体自分はどちらへ向いて進んでいるのか、また進んで行くべきなのかが判らない。その結果、何もしないのが良いのではないかという消極的で内向きなムードが消えない。

1～3月期のGDP成長率がやっとプラスになり、海外では「日本経済が生き返った」という好意的な反応が多かったのだが、国内のメディアは「いや、あれは閏年の故で実はゼロ成長」と水をさす。まるで景気が回復しては困るような論調である。

金融緩和は相変わらず続いている。放っておくとデフレに逆戻りするだろうから、遮二無二の金融緩和は必要なんだが、実質金利が下がれば投資は増える筈なのに一向増えない。金融機関は、マイナス金利という初めて見る化物に怯えてすっかり萎縮してしまっている。「預金は集めるな、貸出しはするな、経費を節約しろ」という声ばかり聞えてくる。

「皆揃って財政出動を」というラッパの音は大きいですが、G7の中でもダントツに財政の悪い国がラッパを吹いても全く迫力がない。消費税引上げ延期も財政出動だということになっているらしいが、延期された時、消費者は「税金が上らないことになったから、その分は使ってしまう」と考えるのだろうか。それとも、「こんなことをやっている」と社会保障制度は必ず維持不能になるから、せっせと貯めて老後に備えよう」と思うのか、答えは判っているのに、そうならない。

金融政策も財政政策も効かないから、やはり大事なものは成長戦略だというのが最近の流行語である。日本経済の現状を見れば、成長促進のためになすべきこと、そしてなしうことは、唯一つ、あらゆる分野で新規参入を活発にすることである。既得権益の保護とか過当競争回避の力に対抗するためには思い切った政治資本の投入と全国民的キャンペーンが必要である。しかし、実際に行なわれていることは、「規制撤廃」ではなく中途半端な「規制改革」ばかりだから何時迄経っても国全体が奮い立つようなエネルギーが生まれない。

その一方で、訪日外人客の増加に背押されて、「日本は世界一美味しくて、親切で、美

しくて、好かれている」という自己愛玩シンドロームがメディアに溢れている。しかも、危険なのはそれが特定国に対するヘイト・スピーチと表裏をなしていることである。

日本全体が奇妙な筋肉弛緩症状に陥っているような気がする。「別に頑張っで何かしなくてもいいんだ」、むしろ「何もしないほうがいいんだ」という惰性状態である。経済同友会の代表幹事が云うように「茹でガエル」なのかも知れない。

しかし、世界は刻々と動いている。とくに日本をめぐるアジア・太平洋地域の経済、軍事、政治、外交関係の転変は正に端倪すべからざるものがある。錯綜する利害・勢力関係の中で日本が生き抜くために絶対必要なことは、「日本経済は再生しつつある」という確証である。それがなければ、日本は軽視され、無視され、大国の影に埋没してしまうだろう。

その意味で、今日本経済は大変大事な局面にあると思う。政治的には「景気回復」が優先するのだろうが、本当の「景気回復」を達成するためには「経済再生」が必要なことを忘れてはならない。

(株式会社マネーパートナーズ ホームページへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2016 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話：03-3245-6934 (代) ファックス：03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>